



文京区  
シンボルマーク

文の京  
(ふみのみやこ)

# 区報 ふみきよ

平成31年  
(2019) 1/1

毎月10・25日発行  
発行/文京区 編集/企画政策部広報課  
〒112-8555 文京区春日1-16-21

代表 ☎ (3812) 7111  
https://www.city.bunkyo.lg.jp/

▲区制70周年を契機に  
制定した区のシンボル  
マークです。

No.1707

## 新春対談

ゲスト  
真田 久さん

**司会** あけましておめでとうございます。  
**真田久氏(以下真田)・成澤区長(以下区長)** おめでとうございます。  
**司会** 本日は、「東京オリンピックピックと文京区」と題して、大河ドラマ「いだてん」でも登場する嘉納治五郎先生や金栗四三選手を取り上げて、来る東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、オリンピックと文京区の知られざるエピソードに迫ってみたいと思います。本日はよろし



**真田区長** よろしくお願ひします。  
**司会** 区長、講道館の嘉納治五郎先生のことによくご存じのことと思います。その嘉納先生とオリンピックの関わりについてはいかがでしょうか。  
**区長** 嘉納師範と呼ばれて講道館の創始者だということは皆さんもよくご存じだと思います。また、日本初のIOC(国際オリンピック委員会)委員としてオリンピックの普及に努められたことまでは、

あけましておめでとうございます  
2019年の新春対談では、筑波大学体育系教授真田久氏をお招きして、文京区にまつわる過去のオリンピックの知られざるエピソードや来る東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への思いを成澤区長と語り合っていました。  
※この対談は、1月1日(祝・火)〜3日(木)午前9時10分午後0時10分午後6時10分午後9時10分からの文京区民チャンネルで放映します。  
問 広報課 ☎ (5803) 1128



**嘉納治五郎**(かのうじごろう)  
講道館柔道の創始者。東京高等師範学校(現・筑波大学)の校長として教育に力を注いだ。日本体育の父と言われ、日本体育協会を設立。アジア初のIOC委員となる。  
「取材協力 公益財団法人講道館」

よく知っていますけれども、今回「いだてん」の話があって、お話を聞いてみると、非常にオリンピックとのつながりが深かったということについては、初めて聞くことが多かったですね。  
**司会** 嘉納先生は柔道の創始者として有名ですが、スポーツとはどのような関わりがあったのでしょうか。  
**真田** 柔道を1882年に作られて、普及に努められた方ですけれども、それ以外に東京高等師範学校(現・筑波大学)の校長を23年半勤められました。その間に日本の学校教育で行われる体育と、スポーツ全般の普及に努められた功績もある方なのです。1909年にアジア人最初の国際オリンピック委員会委員に就任されたから日本

のオリンピックへの関わりが始まっています。  
**区長** 講道館は、シビックセンターのすぐ隣にございますけれども、嘉納先生が初めて講道館を作られたところは、たしか水道橋の駅前あたりにあったと聞いています。前回のリオデジャネイロオリンピックのときにも視覚障害者柔道のメダリストの皆さんが報告に来ていただきました。講道館とは区民向けにイベントを開催させていただいたり、嘉納先生の生誕の日の記念には、ここ数年イベントを共催で行わせていただいているなど、友好関係があります。  
**真田** 今、視覚障害者の柔道というお話がありました。実は、東京高等師範学校附属小学校に、1908年に特別学級を作られました。そこでは地域の知的障害のある生徒を受け入れて、教育を始

まっています。非常に大きな功績を遺された方でありました。最初にオリンピックの話がありましたときに、嘉納先生は既に東京高等師範学校の校長として、留学生もたくさん受け入れられていました。留学生にもスポーツを行わせることで、いろいろな交流が生まれていきました。講道館でも外国人がたくさん入門されていきましたので、スポーツを通して国を越えた交流ですね、オリンピックの話聞いたときに、すんなりと理解できたと、それで彼自身の考えも広めていけるということで、積極的に関わっていったと思います。

まっています。非常に大きな功績を遺された方でありました。最初にオリンピックの話がありましたときに、嘉納先生は既に東京高等師範学校の校長として、留学生もたくさん受け入れられていました。留学生にもスポーツを行わせることで、いろいろな交流が生まれていきました。講道館でも外国人がたくさん入門されていきましたので、スポーツを通して国を越えた交流ですね、オリンピックの話聞いたときに、すんなりと理解できたと、それで彼自身の考えも広めていけるということで、積極的に関わっていったと思います。

まっています。非常に大きな功績を遺された方でありました。最初にオリンピックの話がありましたときに、嘉納先生は既に東京高等師範学校の校長として、留学生もたくさん受け入れられていました。留学生にもスポーツを行わせることで、いろいろな交流が生まれていきました。講道館でも外国人がたくさん入門されていきましたので、スポーツを通して国を越えた交流ですね、オリンピックの話聞いたときに、すんなりと理解できたと、それで彼自身の考えも広めていけるということで、積極的に関わっていったと思います。

まっています。非常に大きな功績を遺された方でありました。最初にオリンピックの話がありましたときに、嘉納先生は既に東京高等師範学校の校長として、留学生もたくさん受け入れられていました。留学生にもスポーツを行わせることで、いろいろな交流が生まれていきました。講道館でも外国人がたくさん入門されていきましたので、スポーツを通して国を越えた交流ですね、オリンピックの話聞いたときに、すんなりと理解できたと、それで彼自身の考えも広めていけるということで、積極的に関わっていったと思います。

## あけましておめでとうございます

新たな年の始まりを迎え、謹んでお祝い申し上げます。  
区民の皆様には、日頃から区政運営に対しまして、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。  
昨年は、全国で立て続けに大規模災害が発生し、本区もブロック塀の安全点検等の緊急対策を実施するとともに、改めて災害対策の重要性を認識いたしました。  
本年も、備蓄物資の充実や、町会・自治会への防災資器材の提供など、積極的に災害対策に取り組んでまいります。  
また、昨年11月に「赤ちゃんを災害から守る社会の実現」に向けて設立した「文京区プロテクトベイビーコンソーシアム」における新たな取組として、昨年8月に国内販売が解禁され、初めて国産化される液体ミルクを、全国の自治体に先駆け、妊産婦・乳児救護所に備蓄いたします。さらに、一定期間備蓄した液体ミルクは、乳児検診や両親学級、防災フェスタ等を通じて

使用経験していただくことで、「ローリングストック」により有効活用してまいります。  
このほか、本年も基本構想の実現に向け、各分野の施策に取り組んでまいります。  
「子育て・教育」分野においては、引き続き、保育所待機児童解消の緊急対策として、私立認可保育所等の開設や公有地を活用した保育所の整備を進めるとともに、巡回指導を強化し、保育サービスの拡充と質の向上の両立を図ることで、子育てしやすい環境づくりに全力で取り組んでまいります。また、児童・生徒の不登校の未然防止や早期発見・対応に向けて、スクールカウンセラーやSNS等により、初期段階から対応・相談を行う、「不登校予防プロジェクト」を実施いたします。  
「福祉・健康」分野では、高齢者支援として、年齢を重ねるとともに心身の活力が低下してしまう状態を防ぐため、「栄養」「運動」「社会参加」の3つの柱に着目した「フレイルチェック」に取り組み、健康寿命の延伸を図ってまいります。また、高齢者の带状疱疹及び子どものインフルエンザのワ

クチン接種費用の一部助成や、成人男性を対象とした風疹対策の拡充など、予防接種制度の充実を図り、区民の健康づくりを支えてまいります。  
来年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ホストタウンとなるドイツの言葉や文化を学ぶ講座を開設するなど、大会への気運を醸成する様々な取組を充実させるとともに、パラリンピック競技種目等を体験できるイベントの開催等を通じ、障害への理解促進につなげてまいります。  
また、今後も、特別養護老人ホームの整備・大規模改修、公園再整備事業、小学校3校の改築等を着実に進め、区民の皆様にとって安全・安心かつ快適な施設環境を整備してまいります。  
本年も、変化の早い現代社会に柔軟かつ迅速に対応しつつ、様々な世代を支える施策にスピード感を持って全力で取り組んでまいります。  
結びに、本年が区民の皆様にとりまして、希望に満ちた明るい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

文京区長 **成澤廣修**



**真田 久** (さなだ ひさし)  
筑波大学体育系教授。古代及び近現代のオリンピック競技会や嘉納治五郎に関する歴史人類学的研究に従事。2010年設立のIOC(国際オリンピック委員会)公認「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム」事務局長。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会委員、同組織委員会文化・教育委員会委員及び、2014年に政府事業としてスタートした「Sport for Tomorrow」の大学院学位プログラム、つくば国際スポーツアカデミーのアカデミー長を務める。

めています。週に5時間、体育を授業にとり入れて、社会に出たときにきちんと働ける社会人にならなければならないこと、特にスポーツに力を入れた特別学級の教育を行っていたようです。嘉納先生が始められた教育が、今では筑波大学の附属特別支援学校に受け継がれています。そこから多くのパラリンピック選手が輩出されています。

**司会** 日本のオリンピック参加への道筋を作られた嘉納先生ですが、1909年当時ほどのような立場だったのでしょうか。

**真田** 一つは講道館の館長です。1882年から、27年間勤められています。それから、東京高等師範学校の校長を1893年から16年間勤めておられます。さらに留学生を受け入れるための「弘文学院」という学校を作り、約7千名以上の留学生を受け入れておりました。

た。当時は、体育の専攻以外の学生もみんな体育を学んでいたのです。彼らが全国に散らばっていったときに、教育の中で体育は重要だということを知り、それが日本全国に広まっていた。中でも嘉納先生が力を入れていたのは、長距離走と水泳です。これは日本国民みんなが行うべきスポーツである、誰にでもできるということ、特に力を入れていきました。

その一つが、東京高等師範学校の学生全員を年に2回の長距離走大会に参加させていました。それが学校の名物となっていました。

**司会** そのマラソン大会で出会うのが金栗四三選手ですね。

**真田** ええ。1年生のときから優秀な成績で、嘉納先生の目に留まった生徒が金栗四三になります。



嘉納先生が作られた体育やスポーツの仕組みの中で金栗四三が育っていったということだと思います。

**司会** 1910年に熊本県から上京し、東京高等師範学校へと進学した金栗四三選手ですが、文京区で過ごした学生時代は、どのような生活を送られていたのでしょうか。

**真田** 当時の寄宿舎は御茶ノ水



**金栗四三** (かなくりしろう)  
1910(明治43)年熊本県から上京し、東京高等師範学校(現・筑波大学)へ入学し徒歩部に入学。4度のオリンピックマラソン代表に選出された。日本マラソン界の発展に大きく寄与し、日本における「マラソンの父」と称される。  
「画像提供：玉名市」



▲金栗選手が練習用に使った足袋  
「画像提供：筑波大学」

に向かうあの通りができていますから、あそこを通ったのか、彦根坂を下りたのか、何らかの形で下りて、斜めにショートカットしながら春日通りに向かっていったということですかね。そういう時代背景を見ながら、どういふルートだったかというのを想像するだけでも一つの物語ができるのではないかと、楽しみにしています。

**司会** その金栗選手ですが、1911年にはマラソン国内予選会で当時の世界記録を27分も縮める大記録で優勝してオリンピック選手になったのですよね。

**真田** 翌年のストックホルムでの第5回のオリンピック競技会に日本選手団の一員として参加することになりました。まず、現地に行くまでが大変だったようです。当時は国からそういう予算は出してくれませんでした。嘉納先生が中心となり、東京高等師範学校に後援会を作り、寄付金を全国の卒業生、それから在校生、教員、教職員から集めて参加をした。

**司会** 周りのサポートは相当なものだったのですか。

**真田** 現地向かうまでも大変でして、東京からストックホルムに入るまでに約17日かかっています。着いてからすぐには練習できず、まず体を整えることから始めたというようなことで、大変な苦労をしております。帰ってきた後、彼は40キロを足袋で走っています。当初は薄

い足袋で、それでは難しいというので、改良をしようということになりました。東京高等師範学校の近くに足袋屋さんがありまして、「播磨屋」なんですけれども、その黒坂辛作さんと一緒に足袋を改良していくということになっていくのです。黒坂さんは、熱心に金栗選手の要望に添えて底を厚くしたり、今度は底をゴムにしたり、ゴムもちゃんと溝ができるようにしたり、長距離でも長くもつような、そういう足袋をお互いに製作していったということなのです。

**区長** 注文生産ですかね。今でもシューズメーカーは選手とタイアップして、シューズを作り上げていく。その日本の走りになるような基礎ですね。

**真田** これが「金栗足袋」という名称で日本全国に広まっていくなことにもなるのです。

また、「播磨屋シューズ」。私も熊本県玉名市に伺ったときに実物を見せていただきましたけど、そういうシューズがあったのだということも、埋もれさせたままにしておいてはいけない歴史なのかなと思います。

**真田** 当時の長距離走ランナーのほとんどが履いておりました、オリンピックは走ってこれた日本選手は走ってこれたことになり、小学校や中学校の運動会でもそれを履こうというようになった。おそろいは「金栗足袋」の流れだったのだらうと思います。その後、オリンピック選手にずっと彼は選ばれていくことになりました。1912年のストックホルムオリンピックでは残念ながら途中で倒れてしまいましたが、次のオリンピックを目指してその金栗足袋を改良し練習に励んでいきました。1914年には2時間19分という世界最高記録をまた出します。これは当時、画期的な記録だったのですけれども、それはまさに改良した金栗足袋の成果だらうと考えられます。それをもって1916年のベルリンのオリンピックを目指したのですが、残念ながら第一世界大戦が起こり、出場ができなくなってしまう。彼は非常に落ち込むのですけれども、その次の1920年のアントワープオリンピックを目指します。これも改良した金栗足袋で走りますが、16位に終わってしまいます。し

にあったのですけれども、彼は、そこから毎日走って東京高等師範学校まで通っていたようです。おそらく春日通りを通っていたのだらうと思います。

また、「播磨屋シューズ」。私も熊本県玉名市に伺ったときに実物を見せていただきましたけど、そういうシューズがあったのだということも、埋もれさせたままにしておいてはいけない歴史なのかなと思います。

**真田** 当時の長距離走ランナーのほとんどが履いておりました、オリンピックは走ってこれた日本選手は走ってこれたことになり、小学校や中学校の運動会でもそれを履こうというようになった。おそろいは「金栗足袋」の流れだったのだらうと思います。その後、オリンピック選手にずっと彼は選ばれていくことになりました。1912年のストックホルムオリンピックでは残念ながら途中で倒れてしまいましたが、次のオリンピックを目指してその金栗足袋を改良し練習に励んでいきました。1914年には2時間19分という世界最高記録をまた出します。これは当時、画期的な記録だったのですけれども、それはまさに改良した金栗足袋の成果だらうと考えられます。それをもって1916年のベルリンのオリンピックを目指したのですが、残念ながら第一世界大戦が起こり、出場ができなくなってしまう。彼は非常に落ち込むのですけれども、その次の1920年のアントワープオリンピックを目指します。これも改良した金栗足袋で走りますが、16位に終わってしまいます。し

また、「播磨屋シューズ」。私も熊本県玉名市に伺ったときに実物を見せていただきましたけど、そういうシューズがあったのだということも、埋もれさせたままにしておいてはいけない歴史なのかなと思います。

**真田** 当時の長距離走ランナーのほとんどが履いておりました、オリンピックは走ってこれた日本選手は走ってこれたことになり、小学校や中学校の運動会でもそれを履こうというようになった。おそろいは「金栗足袋」の流れだったのだらうと思います。その後、オリンピック選手にずっと彼は選ばれていくことになりました。1912年のストックホルムオリンピックでは残念ながら途中で倒れてしまいましたが、次のオリンピックを目指してその金栗足袋を改良し練習に励んでいきました。1914年には2時間19分という世界最高記録をまた出します。これは当時、画期的な記録だったのですけれども、それはまさに改良した金栗足袋の成果だらうと考えられます。それをもって1916年のベルリンのオリンピックを目指したのですが、残念ながら第一世界大戦が起こり、出場ができなくなってしまう。彼は非常に落ち込むのですけれども、その次の1920年のアントワープオリンピックを目指します。これも改良した金栗足袋で走りますが、16位に終わってしまいます。し

また、「播磨屋シューズ」。私も熊本県玉名市に伺ったときに実物を見せていただきましたけど、そういうシューズがあったのだということも、埋もれさせたままにしておいてはいけない歴史なのかなと思います。

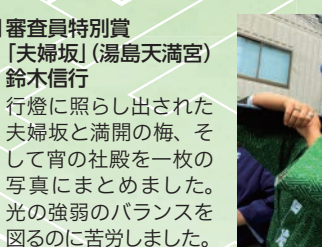
**真田** 当時の長距離走ランナーのほとんどが履いておりました、オリンピックは走ってこれた日本選手は走ってこれたことになり、小学校や中学校の運動会でもそれを履こうというようになった。おそろいは「金栗足袋」の流れだったのだらうと思います。その後、オリンピック選手にずっと彼は選ばれていくことになりました。1912年のストックホルムオリンピックでは残念ながら途中で倒れてしまいましたが、次のオリンピックを目指してその金栗足袋を改良し練習に励んでいきました。1914年には2時間19分という世界最高記録をまた出します。これは当時、画期的な記録だったのですけれども、それはまさに改良した金栗足袋の成果だらうと考えられます。それをもって1916年のベルリンのオリンピックを目指したのですが、残念ながら第一世界大戦が起こり、出場ができなくなってしまう。彼は非常に落ち込むのですけれども、その次の1920年のアントワープオリンピックを目指します。これも改良した金栗足袋で走りますが、16位に終わってしまいます。し

**審査員特別賞**  
「腹部」(鳩山会館) 佐藤久美子  
バラと洋館という、ありがちな組み合わせをどう新鮮に見せるか、構図をあれこれ悩んだ甲斐がありました。

**推薦**  
「夕刻の富士眺望」(文京シビックセンター25階展望ラウンジ) 館石和佳  
東京のビル群や富士山を眺めたり、撮影したりするには最高のスポット。日没後の天空の素晴らしいマジックアワーに遭遇するかも？

**審査員特別賞**  
「夫婦坂」(湯島天満宮) 鈴木信行  
行燈に照らし出された夫婦坂と満開の梅、そして宵の社殿一枚の写真にまとめた。光の強弱のバランスを図るのに苦労しました。

**特選**  
「声高らかに」(白山(文京あじさいまつり)) 山口大貴  
出張で東京に来ていた時にあじさいまつりが開催していること知り、足を運びました。文京区の明るい一コマを撮影することができました。



あけましておめでとうございます。今年区民写真館は第57回文京区観光写真コンクールに入賞された皆さんの作品をご紹介します。(敬称略、カッコ内は撮影場所)

新春特別企画  
**区民写真館**

かし、彼は諦めず次の1924年のパリオリンピックに出場することになりました。

4回のオリンピック代表になったということで、大変な記録です。

**司会** オリンピックを経験して

いく中で、彼自身もいろいろな講演活動などもされたと同様です。

**真田** そうですね。それから彼は、全国を走り回っています。

それが、日本全国にマラソン、長距離走を普及していきこうという活動でもありました。

**司会** 彼は現役を引退した後も

こういった式典に行く機会があったそうですね。

**真田** マラソンの普及に貢献したということが、最初に出場したスウェーデンのオリンピック委員会にも届きまして、ぜひ彼を1967年、つまりストックホルムでのオリンピックから55周年記念のセレモニーをやらうというときに金栗四三を呼ぼうということになりました。

1912年のオリンピックでは途中で倒れて、いなくなってしまうたということになっていましたので、当時のオリンピック競技場に招待をしてゴールをしてもらおうと。54年8月6日、5時間32分20秒3という記録がそのときにつけられた。それで、ストックホルムオリンピックの全日程が終了したというアナウンスが流れたというエピソード

があります。

彼は、日本全国に長距離走、マラソンの普及に貢献をして、その結果、今でも日本人がスポーツを行っている中にマラソンが5本の指には必ず入っているわけですね。そこには金栗選手の影響が大きかったのだらうと思います。オリンピックでは負けましたが、彼の人生では勝ったと言えるかなと思います。

**区長** これを機会に現代に生きる我々としても金栗四三という人物の残したスポーツに対しての足跡、特に陸上競技に対する足跡をしっかりと検証する活動が必要ですね。

**真田** 彼の人生そのものがマラソンだったということが言えます。最後は日本全国に長距離走と体育というものが広められたわけですね。これは嘉納先生が思い描いていた長距離走を国民全員に普及させたいという思いを、実際に展開して広めていったということですので、すばらしい生き方なのかなと感じますね。

**司会** オリンピック開催に向けて、当時はどんな活動が行われていたのでしょうか。

**真田** 1940年の東京オリンピックの開催が決まるのは、1936年のベルリンでのIOC総会です。当時は1928年のアムステルダムオリンピックで日本選手が金メダルを、1932年のロサンゼルス大会でも競泳陣が大活躍をします。陸上競技の3段跳びでも金メダルと活躍します。そういう中で東京にオリ



▲成澤区長

ピックを誘致しようという大きな動きが起ころうとします。特に大きなビジョンの一つは関東大震災からの復興ということが挙げられていました。1923年に関東大震災が起こって、東京が焼け野原になりました。だんだんと復興していくのですが、そのときに嘉納先生はスポーツを通して復興を進めようという考えを持ってまいります。その一つが1924年のパリオリンピックに選手を派遣すること。当然、そんなときに選手を出すべきではないということだったので、国民の復興への士気を高めていくということと、世界に對しても震災に負けていないという姿を示そうということ、オリンピックに参加していきま



匹克に参加していきま。招致活動は、具体的にどのように行われたのでしょうか。

**真田** 最初に、東京市長の永田秀次郎が東京の復興を示すということ、当時は、日本建国から2600年目に当たる。このときに日本国を挙げてお祝いしよう、その一つとしてオリンピックを開催しようということ

を提案をしていきます。

**司会** 永田秀次郎に関しては、区長はどのように捉えていらっしゃいますか。

**区長** 永田秀次郎は拓殖大学の学長で東京市長、今の東京都知事です。区民でもあった方だと言われています。

**真田** 1931年10月に東京市が議会でオリンピックを東京で行うよう活動を始めると決

議します。翌年、永田秀次郎が書いた招請状を嘉納先生がロサンゼルスに持っていきまして、IOC会長に手渡すということになります。

**司会** ほかにどのような方が活躍されたのでしょうか。

**真田** 杉村陽太郎という人物がおりまして、彼は東京高等師範

学校附属中学校出身で、東京帝国大学出身の外交官になります。彼も実は講道館に入門してまして、嘉納治五郎の弟子で、教子でもあります。彼がこの東京招致に活躍をします。最大の貢献は、一番の強敵であったローマに取り下げてもらおうということ、嘉納先生が提案します。彼は、副島道正というもう一人のIOC委員と二人でムッソリーニ(第27代イタリア王国首相)に直談判に行きます。これが大きなサポーターになって、東京への流れができていくということになります。

実は1964年の東京オリンピックを決めるときにも、文京区の関係者が大きく貢献をしております。平沢和重という方で、彼も東京高等師範学校附属中学校出身で、東京帝国大学出身の外交官になります。彼は嘉納先生の最期に立ち会った日本人になります。嘉納先生は、船でバンクーバーから横浜港を目指し、横浜に着く二日前に亡くなります。嘉納先生から毎日のように東京オリンピックの話が聞かされていて、ぜひ成功させてもらいたいという、追悼文を書いています。

その彼が1964年のオリンピックの開催地を決める

1959年のミュンヘンのIOC総会の最終演説者として登壇をします。嘉納先生の思いを受けて、国語の教科書を取り出し、「五輪の旗」というエッセイの一節を読んで、「日本の子供たちはオリンピックについてみんな勉強している、オリンピック開催の準備はできている」と演説をして、東京が決まることになりました。嘉納先生の思いを受けて、1940年と1964年の東京は、ともに文京区の関係者が招致に大きな貢献をしていたということが言えます。

区長 今の話を聞くと、嘉納先生は、1940年招致のときに日本の地を踏むことなく亡くなってしまっているけれども、その思いをつないだ人たちが、その後の1964年につないでいくという、歴史の折り返し点を感じますね。1940年の幻のオリンピックは戦争という負の面もあって中止になるわけですが、その大会に嘉納先生たちが込めた復興五輪、その思いは、今度の東京2020オリンピック・パラリンピック・イベントでつないでいくことも大切ですね。

**真田** そうですね。2020年、まさに復興五輪というビジョンもついていますので、それを嘉納先生の思い、また永田秀次郎の思いというものがそこで実現されれば、本当にすばらしいことになると思います。

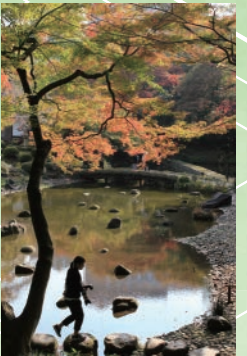
大会を開催したり、関東女子体育連盟を作ったりして、女子の体育にも貢献しています。そういう意味で女子体育の発展をつかさどっていた、まさに重要な拠点であったということが言えるわけですね。さらに言えば障害のある子どもたちのための体育もここから始まっていったということでありまして。いろいろなことが文京区から始まっている。そのことを踏まえて、これから何を考えていければ、すばらしいなと思っております。

**区長** 今のお話を伺っていると、かつての東京オリンピックに向けての様々な動き、嘉納治五郎先生や金栗四三さんが残してくれた足跡、これが今のオリンピックワードで言うところの「レガシー」だったはずなのに、それが今、埋もれてしまっている。それをここでしっかりと区民の皆さんにもお知らせをするのと同時に、来るべき東京2020大会、もう来年のことですから、しっかりと次のレガシーを生んでいくために、区民の皆さんとともに歩みを進めなければならぬなと思っております。

文京区はドイツのカイザースラウテルンや鵬外でベルリンの取組みがあるなどの縁から、ドイツのホストタウンになっていまして、この活動を通じて、スポーツのみならず国際理解や平和や人権について、子どもたちにも学びを深めたいという思いがあります。

それぞれの種目の選手を区民の皆さんと一緒に応援して、次に遺せるレガシーを、文京区らしいものをつくっていく

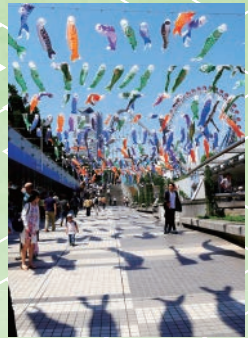
4面につづく



審査員特別賞 「紅葉を求めて」(小石川後楽園)八方正義 文京区で生まれ育った私には後楽園は忘れられない場所です。小学5年生の時に遠足で行った場所です。



準特選 「桜咲く三重塔」(ホテル椿山荘東京)小池茂 桜満開の椿山荘を訪れ庭園の桜と三重塔がマッチした美しい光景を撮影することができました。



準特選 「舞い踊る鯉のぼり」(東京ドームシティ) 岩上行得 5月の快晴に多数の鯉のぼりが舞い踊っていました。



準特選 「晩秋の五丈滝/幽翠池」(ホテル椿山荘東京) 本多俊生 池で落葉がくるくる回る様子と滝の流れの動きを何回か試しながら撮影。映り込みも加わり、幻想的な雰囲気が出たと思います。



準特選 「東京大学総合研究博物館小石川分館」(東京大学総合研究博物館小石川分館) 犬伏泰三 この建物は小石川植物園の裏門出口の横に建てられています。朝の散歩に丁度良く、建物の赤が朝日を浴びて輝いて見えました。

4面につづく

司会 大河ドラマ「いだてん」に関して  
も事業が進められているそうですね。  
区長 観光施策としてデジタルジャー  
ニーというスマートフォンアプリを  
使っているようなものをVR・AR・  
チャルリアリティで見る事業を  
行っています。「いだてん」についても  
いろいろと用意する予定です。当時の  
「播磨屋」そのものが残っているわけ  
はないけれども、そういう歴史をまち  
歩きしながら、学んで、見て、楽し  
んでいただけるような素材づくりとい  
うのは努力をしたいと思っています。企画段  
階ですけれど、「いだてん」ウオークと  
いうものをやろうと。ウオーキングで  
金栗四三が走ったであろうところを想  
像しながら、御茶ノ水あたりから大塚  
まで行くようなコースの開発というよ  
うなものもやってみたいと話してい  
るところです。

真田 過去の先人たちの苦労や努力な  
どを生かしていくと同時に、オリンピッ  
ク・パラリンピックは未来のことを考  
えていくものだと思います。2020年、  
どういった社会にしていけるのか、あるい  
はそれ以降どのような地域にしてい  
けるのかということ、いろいろなこと  
を考えていける格好の材料だと思っ  
ています。そういう意味で、ますますこ  
の文京区が発展されることを祈って  
いきたいと思っています。

区長 オリンピックはスポーツの祭典  
であると同時に、国際理解や平和や人  
権を学ぶ非常に貴重な機会だと思  
います。「オリンピック・パラリンピッ  
ク」も新聞の活動を通して、区内の小  
中学生の皆さんにもスポーツの楽し  
さだけじゃない大切なものを感じとっ  
てもらおうという取り組みがあるので  
が、そういった気持ちを区民全体に共  
有することができて、スポーツを通  
して様々なことを学べる、そんなた  
りができるようなまちにしていきたい  
と思います。

特にハードの面では、例えば、パ  
ラリンピアンの方や障害者の方たち  
が数多く来ると思えば、ユニバーサル  
デザインのまちづくりを進めるのは

対談後

真田教授と成澤区長は、  
講道館にある柔道資料  
館・図書館を見学しまし  
た。真田教授の解説を受  
けながら、嘉納治五郎師  
範とオリンピックに関す  
る資料を閲覧しました。



「取材協力 公益財団法人講道館」

ちろんのことですが、心のバリアフリー  
を進めていくことも、とても大切なこ  
とだろーと思つています。ダイバーシティ  
やソーシャルインクルージョンを感じ  
られるようなまちになっていくために、  
これからも歩みを進めていきたいと思  
つております。

司会 本日は、貴重なお話をしていた  
いただきありがとうございます。  
真田区長 ありがとうございます。

※ソシヤルインクルージョン すべての人々  
を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康的  
で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の  
構成員として包み支え合うという理念  
※口述筆記ですが、紙面の都合上、若干の言い回  
し等の変更と一部省略をさせていただきます。



大河ドラマ「いだてん」主人公  
かなくりしそ 三 青春の地・文京区プロジェクト

記者発表&トークイベント

日本マラソンの父と称される金栗四三は、嘉納治五郎や播磨屋足袋店等多くの人の支えを得て、文京の地から日本人初のオリンピック出場を果たしました。  
区では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成及び観光振興を目的に、本作登場人物に関するプロジェクトを発表するほか、ゲストを招いたトークイベントを行います。  
①1月23日(水)午後4時30分～5時30分 区民ひろば(シビックセンター地下2階) ②どなたでも ③当日直接会場へ ④アカデミー推進課観光担当 ☎(5803)1174

講演会 大河ドラマ「いだてん」制作の舞台裏

大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」でマラソン指導を行う金哲彦さんに、主人公・金栗四三役の中村勘九郎さんへのマラソン指導についてなど、ドラマ制作の舞台裏をお話しいたします。



▲金哲彦氏

②2月9日(土)午後2時30分～3時45分 ③スカイホール ④金哲彦氏(大河ドラマ「いだてん」マラソン指導) ⑤99人(抽選) ⑥無料 ⑦往復はがき(1枚2人まで)に講演会名・郵便番号・住所・申込者全員の氏名(ふりがな)・電話番号と返信用にもあて先を明記し、〒112-8555文京区アカデミー推進課アカデミー推進係 ☎(5803)1307へ(区ホームページからも申込可) ⑧1月21日(月)必着

市民講座

糖尿病性腎症を予防しよう!

②2月9日(土)午後2時～3時30分 ③東京慈恵会医科大学(港区西新橋3-25-8) ④どなたでも ⑤定員300人(申込順) ⑥無料 ⑦問電話で慈恵医大病院・医療連携室 ☎(3433)1111へ

成人の日記念 はたちのつどい

①1月14日(成人の日・月)午前11時～正午 ②シビックホール大ホール ③対平成10年4月2日～平成11年4月1日生まれの区内在住者 ④区民課地域振興係 ☎(5803)1170 ※案内状が届かない場合は上記へ。

「はたちの献血」にご協力ください

1月1日(祝・火)～2月28日(木)の間、「はたちの献血」キャンペーンを実施しています。冬の時期は、血液が非常に不足します。成人式を迎えた方をはじめ、多くの皆さんに、献血のご協力をお願いします。  
④文京区献血推進協議会事務局(生活衛生課) ☎(5803)1223 東京都赤十字血液センター推進課 ☎(5272)3523



前年の成人のみなさん▶



①1月16日(水)①午前10時～11時30分 ②午後1時～4時 ③アートサロン

準特選▶ 「根津宮永町一夏」(根津)河口安喜子 近代的なマンションの立ち並び住宅街に忽然と現れた、風格ある木造三階建に感動しシャッターを押しました。



準特選「炎暑の祈り」(湯島聖堂)田所俊一▶ 30数度を越える炎暑、人気のない聖堂で出会ったカップルの祈願が叶うことを祈りつつ、シャッターを切りました。



準特選 「桜の下で」(播磨坂)岸幸夫 子どもたちが美しく咲いた桜の下で、楽しくのびのびと遊ぶ姿が良かったです。

準特選▲ 「満開の中、スベリ台で遊ぶ」(江戸川公園)鈴木健之 子どもたちに人気の長い滑り台を上から見ると、幾何学的でシンメトリー。満開の桜とともに楽しく遊ぶ子どもたちを撮りました。



準特選 「静かな庭園」(肥後細川庭園)鈴木藤男 とても静かな庭園でゆっくりと大きな池を一周し、身も心も癒されながら散歩できました。

準特選 「夕焼けシルエット」(文京シビックセンター25階展望ラウンジ)本田誠 今回は、準特選に選出頂きとてもうれしく思っております。これからは文京区の新たな魅力を発見していきたいと思っています。

凡例 日誌 会場 内容 講師 対象 定員 費用 申込 締切 問問合